

営業統括センターの新設に伴う駅体制等について

提案を受ける③

主な議論

- **営業統括センター設置の目的と根拠について**
エリアの規模、業務量、立地条件などを勘案し決定した。
- **現在の地区指導センターの役割について**
地区・エリアでまとめる予算や訓練会、勉強会などを行っている。今後は各営業統括センターで担う。
- **地区指導センターの要員について**
現行は全員が「管理」となっているが、各営業統括センターに「管理」「一般」2名ずつ配置する。そのため改正後は「一般・変形等」の出勤数が増加している。
- **勤務箇所の指定について**
営業統括センターとして一つの箇所となるため、勤務箇所の指定については所長の判断で行う。
- **勤務表の作成について**
駅ごとに調整しながら作成する。
- **各グループの振り分けについて**
どちらに所属しているかは勤務表を見てもらえばわかる。
期間について取り決めはなく、1ヶ月で変わることもあり得る。
変更の判断は現場の管理者
- **各ユニットについて**
基本1つのユニットに入ってもらい、重複して行うことは考えていない。
変更のタイミングは現場管理者の判断。そのため長い人・短い人が出てくるが、頻繁に変えることを目的にはしていない。
業務グループに所属している社員が、ユニットの作業を行う場合は、今まで通り日勤を指定したり、作業ダイヤの見直しによる企画業務の時間で行ってもらうことが基本。必要により超勤での対応も可能。
- **グループ・ユニットの社員希望について**
今まで通り、面談や日々のコミュニケーションを通じて希望は把握するが、判断はあくまで箇所長になる。
- **営業統括センター設置に伴う建屋について**
企画グループの作業スペースを整備する。
土浦⇒土浦駅下りホーム会議室および下りホームイートインスペースを改良
水戸⇒水戸駅旧びゅうプラザバックヤードと内勤スペースを一体化
勝田⇒勝田駅上りホーム MTS 詰所および倉庫を改良
- **みどりの窓口営業時間変更について**
短縮する時間帯の発券枚数は30枚弱、人数として10名前後。現状で徒列ができる状況ではない。
また、時間を変更することにより、泊まり勤務から日勤に変更することができる。

鉄道会社が担う本来業務を行える体制と、安全・安心して働ける社員の労働環境を構築しよう！